

第5項 施工管理記録様式

【特記事項】

に変更のうえ、使用すること。

なお、様式1-1については、農村整備課独自の様式であるため、これを使用すること。

施工管理記録様式目次

様式番号	名 称	摘 要
1	工事施工管理表（表紙）	
1 - 1	工事施工管理実績書	
2 - 1	出来形管理図表（その1）・（その2）	その1・その2は工種により適宜選択
2 - 2	度数表	
2 - 3	管路管理表	
2 - 4	表土扱い整地工出来形管理表	
2 - 5	基盤整地工出来形管理表	
2 - 6	畦畔工出来形管理表	
2 - 7	有材暗渠出来形管理表	
2 - 8	竪穴ボーリング出来形管理図表	
2 - 9	杭打工出来形管理図表	
2 - 10	杭工事偏心出来高管理図	
2 - 11	杭打工（鋼管・H形鋼）出来形管理図表	
3 - 1	測定結果一覧表 （その1）・（その2）・（その3）	その1・その2・その3は工種により 適宜選択
3 - 2	鋼管溶接測定結果一覧表	
3 - 3	鋼管溶接、塗覆装点検表	
3 - 4	管水路ジョイント間隔測定結果一覧表	
3 - 5	埋設とう性管たわみ量管理表	
3 - 7	鉄筋組立検査結果一覧表	

様式番号	名 称	摘 要
3 - 8	主要資材寸法等測定結果一覧表	
3 - 9	整地工測定結果一覧表	
3 - 10	有材暗渠測定結果一覧表	
3 - 11	横穴ボーリング出来形測定結果一覧表	
4	杭打ち成績表（その1）・（その2）	その1・その2は測定項目により適宜選択
5	路面の平坦性試験表（標準偏差）	
6	プルーフローリング試験	
7 - 1	X - R 管理データシート	
7 - 2	X - R 管理データシート	
7 - 3	X - R 管理図	
8 - 1	X - Rs - Rm 管理データシート	
8 - 2	X - Rs - Rm 管理データシート②	
8 - 3	X - Rs - Rm 管理図	

令和 年度

工事番号 第 号

工事名 工事

工 事 施 工 管 理 表

請負会社名

工事施工管理実績書

〇〇地区 〇〇工事

会社名：

工事内容		出来高管理				写真管理				品質管理				
工種	工事数量	測定項目	測定基準	基準回数	実測回数	撮影項目	撮影基準	基準回数	撮影回数	試験項目	試験目	試験基準	基準回数	試験回数

出 来 形 管 理 図 表

略図

工 事 名	
請 負 者	
測 定 者	
工 種	
種 別	
細 別	
測 定 項 目	

特 性 単 位	測 点			測 点			測 点			測 点											
	規 格 値	社 内 規 格 値	測 点	規 格 値	社 内 規 格 値	測 点	規 格 値	社 内 規 格 値	測 点	規 格 値	社 内 規 格 値	測 点									
													設 計 値	実 測 値	差	設 計 値	実 測 値	差	設 計 値	実 測 値	差
													計	平均 値	最 大 値	最 小 値	計	平均 値	最 大 値	最 小 値	計
計																					

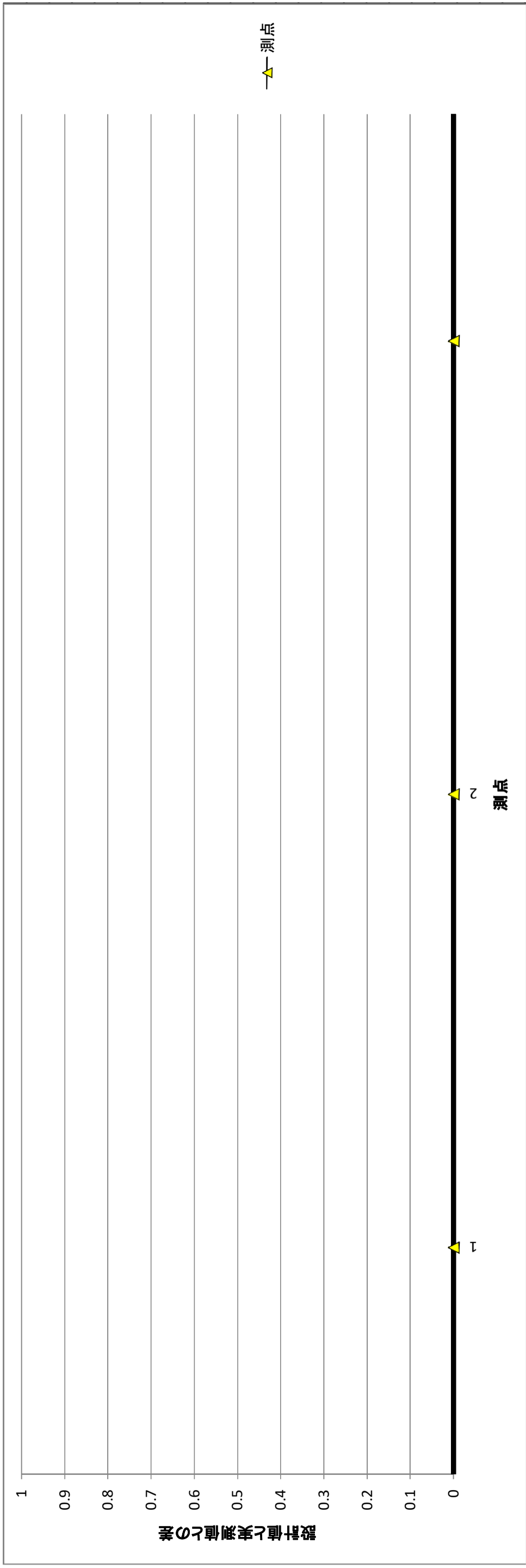
出 来 形 管 理 図 表

略図

工 事 名
請 負 者
測 定 者
工 種
種 別
細 別
測 定 項 目

追 加

様式は出来形管理図作成支援システムより
<http://www.ngsk-kenkyou.or.jp/dekigata-sys.html>



出来形管理図表

工 事 名 _____

請負会社名 _____

工 種 名 _____

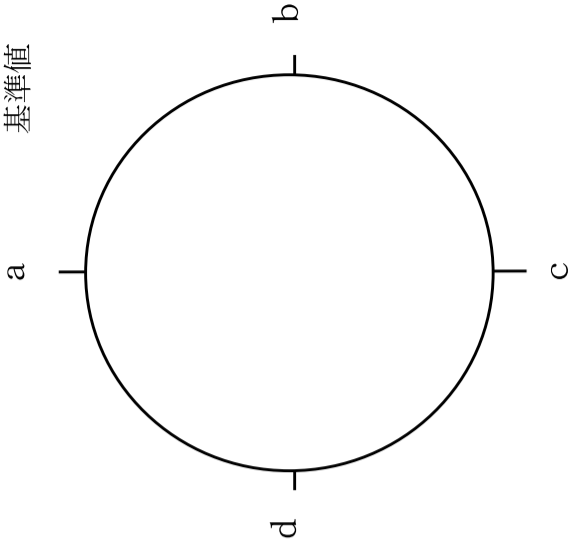
測 定 者 _____

規格値 A		測 定 単 位
+	-	

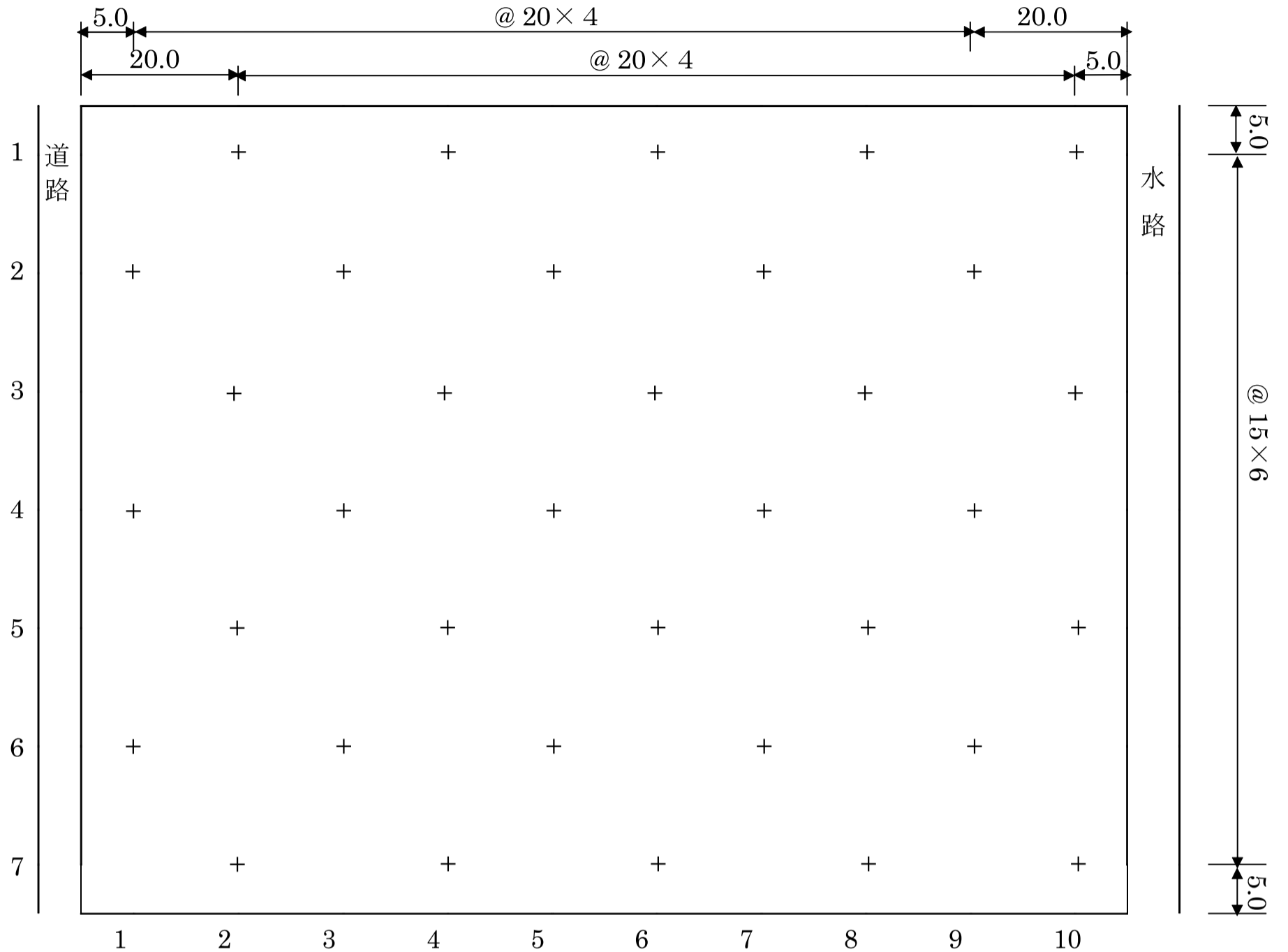
番号	月 日	測 点	設 計 値 B	実 測 値 C	設 計 値 と の 差 D=C-B	企 画 値 と の 差 E=A-D	設 計 値 と の 差

<p>記入事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。 2. 「番号」の欄は施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。 3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。 4. 設定値との差の単位を定め、目盛りに数値を記入する。 5. Eを算出する A 値は、D>0の場合は+側の値を、D≤0の場合は-側の値を用いる。また、 A 値が+側か-側の片方、若しくは両方ない場合は、その符号側はE= D とする。 	<p>測定箇所図</p>
--	--------------

請負会社名
測定者

管番号 or 測点	追加距離	基準高	基準高 の 実測値	基準高 と実測 値の差	中心線 のズレ	継ぎ手スキマ(mm)				ボルト締付トルク値 kg/cm				特記事項	摘要	
						a	b	c	d	平均	許容値	a	b			c
																<div style="text-align: center;">  <p>基準値</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大口径とは300m/m以上のパイプとする。 2. 本管理表は、ダクタイル鋳鉄管を参考としているので、鋼管、石綿管、ヒューム管、塩化ビニル管等については、管の特性を考慮、管理表を作成すること。 3. 小口径管路についても適宜様式を作成すること。

請負会社名
測定者

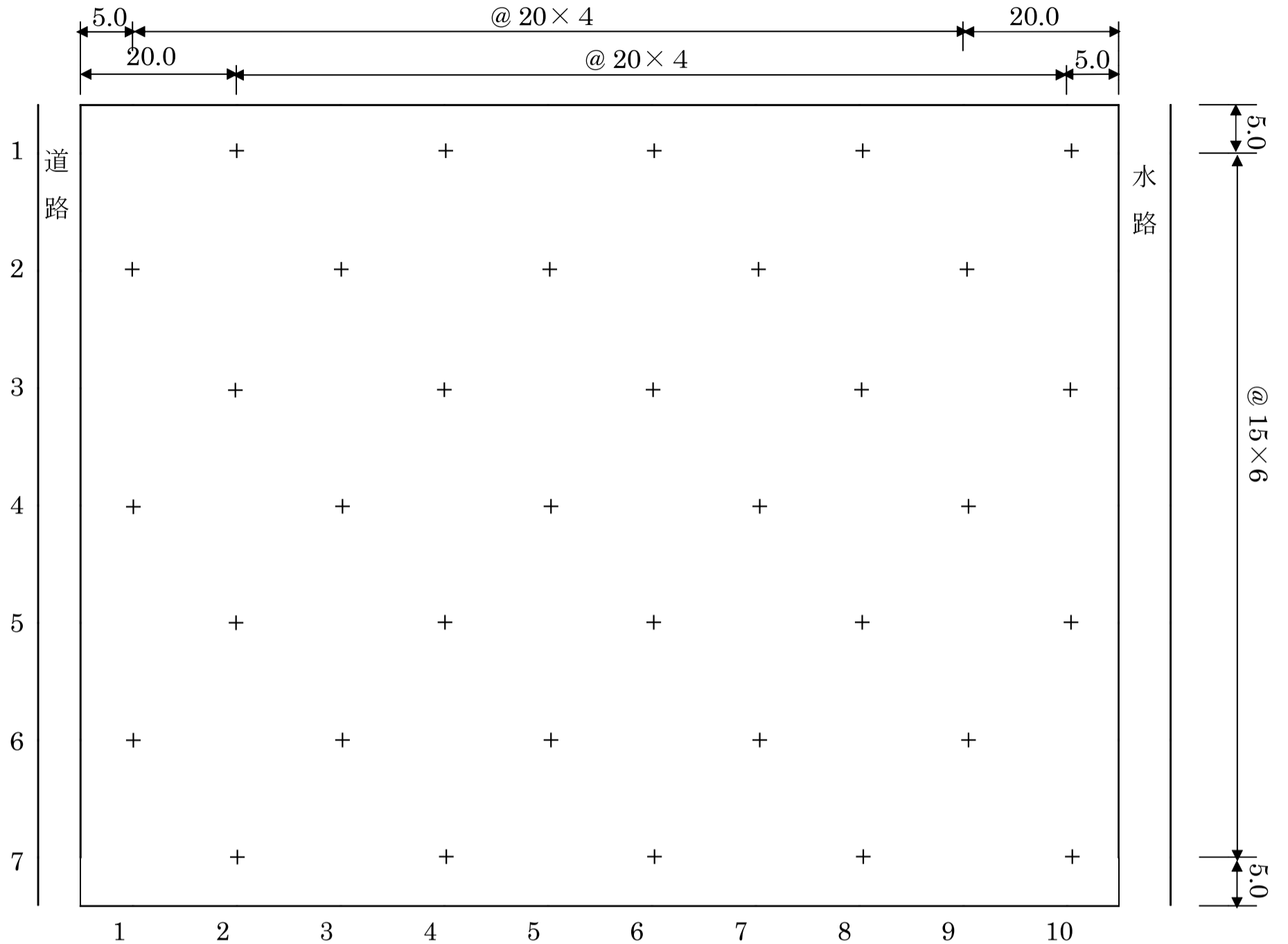


(+)										
(-)										

耕区番号				最高田面高			出来形標高との差
B・M				最低田面高			
目標標高			高差	道路側田面高			高差
平均出来形標高				水路側田面高			
許容範囲	上限			平均表土厚			
	下限						

- 注 1. 図表には施工後の区画、形状を明示する。
 2. 測定基準は 33 点/ha (20×15m) を標準とするが、山間部の様に田差の大きい場合は必要に応じ変更してもよい。
 3. 平均表土厚は、算術平均値とする。

請負会社名
測定者



(+)										
(-)										

耕区番号				最高田面高			出来形標高との差
B・M				最低田面高			
目標標高			高差	道路側田面高			高差
平均出来形標高				水路側田面高			
許容範囲	上限						
	下限						

- 注 1. 図表には施工後の区画、形状を明示する。
 2. 測定基準は 33 点/ha (20×15m) を標準とするが、山間部の様に田差の大きい場合は必要に応じて変更してもよい。
 3. 平均表土厚は、算術平均値とする。

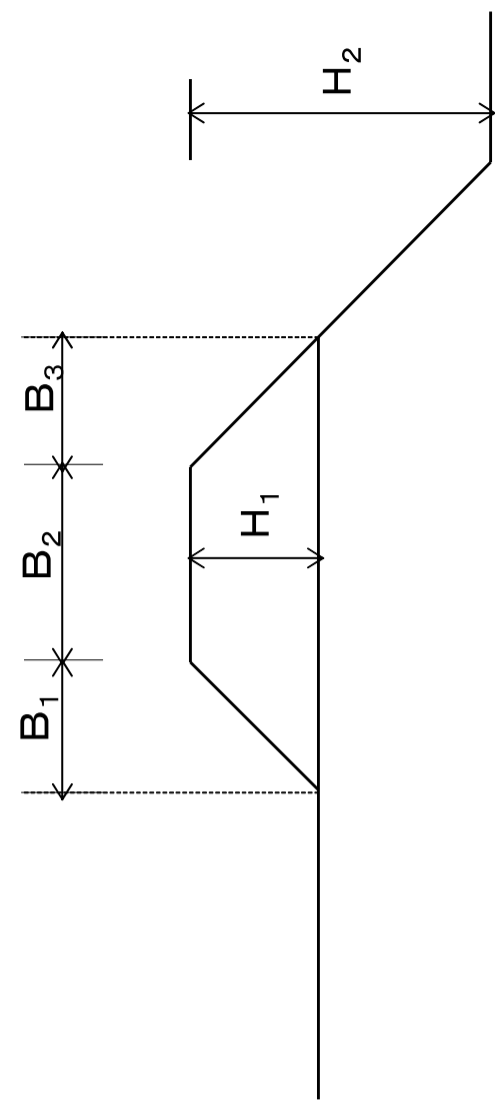
畦畔工出来形管理表

請負会社名

測定者

耕区番号	畦畔番号	延長	幅			高さ		摘要
			B ₁ (設計値)	B ₂ (設計値)	B ₃ (設計値)	H ₁ (設計値)	H ₂ (設計値)	

断面図



有材暗渠出来形管理表

請負会社名

測定者

路線番号	延長	A-A'断面				B-B'断面				C-C'断面				摘要
		掘削深 (a) (設計値)	碎石砂利 厚(b) (設計値)	もみがら 厚(c) (設計値)	表土厚 (d) (設計値)	掘削深 (a) (設計値)	碎石砂利 厚(b) (設計値)	もみがら 厚(c) (設計値)	表土厚 (d) (設計値)	掘削深 (a) (設計値)	碎石砂利 厚(b) (設計値)	もみがら 厚(c) (設計値)	表土厚 (d) (設計値)	

縦穴ボーリング出来形管理図表
請負会社名

工事名

測定者

掘進長	設計値との差													
	(+)													

挿入パイプ長	設計値との差													
	(+)													

掘進長	設計値と													
	の差 C=A-B													

挿入パイプ長	設計値と													
	の差 C=A-B													

- 注
1. 挿入パイプ長とは、地中部の長さを示す。
 2. 設計値との差の単位を定め目盛りに数値を記入する。
 3. 測点は起点から終点に向かって記入する。
 4. 図には、規格値を朱線で記入する。
 5. 表の設計値は図面及び設計書より転記し、実測値は直接測定による。

杭工事偏心出来高管理図

工事名 _____ ブロック名 _____ 請負会社名 _____ 測定者 _____

No.	No.	No.	No.	No.	No.
()	()	()	()	()	()
ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=
()	()	()	()	()	()
L=	L=	L=	L=	L=	L=
()	()	()	()	()	()
()	()	()	()	()	()

No.	No.	No.	No.	No.	No.
()	()	()	()	()	()
ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=
()	()	()	()	()	()
L=	L=	L=	L=	L=	L=
()	()	()	()	()	()
()	()	()	()	()	()

No.	No.	No.	No.	No.	No.
()	()	()	()	()	()
ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=
()	()	()	()	()	()
L=	L=	L=	L=	L=	L=
()	()	()	()	()	()
()	()	()	()	()	()

No.	No.	No.	No.	No.	No.
()	()	()	()	()	()
ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=	ℓ=
()	()	()	()	()	()
L=	L=	L=	L=	L=	L=
()	()	()	()	()	()
()	()	()	()	()	()

杭中心 (実測)
(例) N=4.0(cm)
E=5.0(cm)

杭中心 (設計)

杭間隔 ■ = 設計値 (実測値) 差
列長 L = 設計値 (実測値) 差

⊖10cm ≦ ℓ ≦ ⊕10cm
⊖20cm ≦ L ≦ ⊕20cm

(注) 列長 L は追加距離を記入する。

杭打工（鋼管・H形鋼）出来形管理図表

工事名 _____

標準	高さ	_____													
		_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____

請負会社名 _____

測定者 _____

(注) 管理表には、杭長および基盤線を図示し、溶接ヶ所とそのスパン長を記入する。

実測値	杭番号	杭	m																			
		長さ	m																			
		溶接ヶ所	m																			
		スパン長																				
		ヶ所																				

数量表												
使用区分	1本の長さ	切断による	1本の長さ	本数	延長	備考	定尺	切断①	②	③	④	計

様式 3-1

測定結果一覧表

工事名 _____

請負会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____

測 点	設 計 値 A	実 測 値 B	設計値との差 $C = B - A$	規格値 D	規格値との差 $E = -$

- 注 1. 出来形の場合はE欄に記入する必要はない。
 2. 品質の場合は必要と思われる欄のみ記入し、他は空欄とする。

出来形測定結果一覧表

請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____

測点	実測値		設計値 A	C=B-A	実測値		設計値 A	C=B-A	実測値		設計値 A	C=B-A	実測値		設計値 A	C=B-A	測定箇所標準断面図	
	B	C=B-A			B	C=B-A			B	C=B-A			B	C=B-A				

測定結果一覧表

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____

規格値 A		測定単位

規格値 A		測定単位
	+	
	-	

番号	月日	測点	設計値 B	実測値 C	設計値との差 D=C-B	規格値との差 E=A-D
50			53	59		

番号	月日	測点	設計値 B	実測値 C	設計値との差 D=C-B	規格値との差 E=A-D
50			53	59		

記入事項

1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。 3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
2. 「番号」の欄は施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
4. Eを算出する|A|値は、D>0の場合は+側の値を、D≤0の場合は-側の値を用いる。また、|A|値が+側か-側の片方、若しくは両方ない場合は、その符号側は E=|D|とする。

鋼管溶接測定結果一覧表

工 事 名 _____

請負会社名 _____

工 種 名 _____

測 定 者 _____

測定位置	実 測 値				規格値	摘 要
	X	Y	X'	Y'		

鋼管溶接、塗覆装点検表

工 事 名 _____

請負会社名 _____

測 定 者 _____

測定位置	工 種	項 目	判 定		摘 要
			良	否	

管水路ジョイント間隔測定結果一覧表

工 事 名 _____

請負会社名 _____

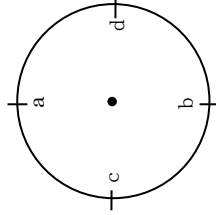
工 種 名 _____

測 定 者 _____

工 種 名 (呼び径)	測定年月日	測定位置 (管番号)	測定値(接合時)				規格値	判 定	備 考	判 定	測定値(埋戻後)				備 考
			a	b	c	d					a	b	c	d	

測定箇所

- 注) 1. 規格値は接合時・埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 2. 接合時の測定は、呼び径700mm以下の場合は管の外から確認してもよい。
 また、埋戻後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。
 3. 施工データが安定するまでの間は、上表の4箇所にこだわらず密に測定すること。
 4. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。



＜記載例＞

測定位置 No.00 受(受口側)データ記載 " " 挿(挿口側)データ記載	測定値				平均
	a	b	c	d	

埋設とう性管たわみ量管理表

工 事 名 _____ 請負会社名 _____

工 種 名 _____ 測 定 者 _____

測 定 位 置 (管番号)	管 据 付 時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+ t(mm) (内径)(管厚)
	D _o	たわみ率	D _h	たわみ率	D _o	たわみ率	D _h	たわみ率	D _o	たわみ率	D _h	たわみ率	
	mm	%	mm	%	mm	%	mm	%	mm	%	mm	%	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100 (\%)$$

$\Delta X = [2R - (D_o + t)]$ 又は $[2R - (D_h + t)]$
 2R : 管厚中心直径
 t : 管厚

- 注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。
 2. 測定については「農業土木工事施工管理基準」第2項 直接測定による出来形管理の8管水路工事 管水路（埋設とう性管）の測定基準による。
 3. 矢板引抜き時の測定値は「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

鉄筋組立検査結果一覧表

工事名：

工事名：

請負会社名：

番号	測定年月日	径 (mm) 及び本数 (本)		中心間隔 (mm)			かぶり (mm)			組立状況 (継手長、曲げ状況、結束等)		備考
		設置値	判定	設置値	検査値	判定	設置値	検査値	判定	判定	判定	

測定箇所： (設計上の位置及び名称) 測定者： 印

記入事項

1. かぶりの許容誤差は±φかつ最小かぶり以上とする。
2. 鉄筋間隔の許容誤差は±φとする。
3. 判定欄は合格、不合格を記入する。

工測定結果一覧表

請負会社名

測定者

耕区番号	田面標高			田面不陸					田面勾配			砕土深 (表土厚)	耕土深	摘要	
	計画	平均出来形	高差	許容範囲 上限	許容範囲 下限	最高田面	最低田面	平均出来形に対する高差 最高田面	平均出来形に対する高差 最低田面	道路側 平均標高	水路側 平均標高				高差

注) 本表は、様式2-4、及び様式2-5より各々転記し、表土扱い整地工測定結果一覧表、表土扱い整地工測定結果一覧表、基盤整地工測定結果一覧表を作成する。

有材暗渠測定結果一覧表

請負会社名

測定者

耕区番号	面積 (m^2)	施工全長 (m)	吸水管延 長 (m)	吐出管 (ヶ所)	被覆材数量			摘要
					延長 (m)	平均断面(m^2)	立積(m^3)	

注) 本調書には出来形管理平面図を添付する。

様式 4

基礎杭打成績表

杭規格 _____ ハンマー重量(t) _____ 請負会社名 _____
 打込機種 _____ 支持力公式 _____ 測定者 _____

年 月 日	杭番号	杭打順	杭深度 (m)		ハンマー 落下高(m)	最終貫入量(cm)		支持力(t) (設計)	貫入量 支持力					
			地面より の深度	計画杭天 よりの深度		S回貫入量	平均貫入量		貫入量	支持力	貫入量	支持力		

- 注 1. 本表により難しい場合は、別途協議の上変更されたい。
- 2. ヤットコ打の場合は、支持力欄にヤットコ打換算支持力を () で併記する。

杭打ち成績表

工事名 _____

請負会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____

杭打込み 月 日	杭番号	杭規格	測定時 杭深度 (m)	ハンマー 落下高 (cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下 量 (cm)	支持力 (kN)	摘要

杭配置図

適用公式名 _____

設計支持力 _____

路面の平坦性試験表（標準偏差）

工 事 名		測 定 車 線	
		測 定 器 の 種 類	
施 工 地 名	市 町 村 郡	測 定 年 月 日	年 月 日
請 負 会 社 名		測 定 者	

標準偏差の計算	$\bar{R} = \frac{R_1 + R_2 + R_3 + \dots + R_n}{n}$ $\sigma = \frac{\bar{R}}{d_2}$	d2の値	
		グループの大きさ	d2
		6	2.53
		7	2.70
		8	2.85
		9	2.97
		10	3.08

グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)

注) 1. 測定値を作成したのち本表で標準偏差を求める。
 2. 測定方法は「アスファルト舗装要綱」による。

プルーフローリング試験

工 事 名 _____

請負会社名 _____

工 種 名 _____

測 定 者 _____

項 目	事 項				備 考
天 候		測定面の含水状況			
試験区間	No. _____ ~ No. _____				
載 荷 車	型 式		接 地 圧		
載荷状況	予備載荷回数	回	本載荷状況	km/h	

試 験 結 果	
視 察 展 開 図	
視 察 記 事	
異 常 箇 所 の 処 置	

\bar{X} -R 管理データシート

工 事 名	請負会社名
工種名(名称)	測 定 者
項目名(品質特性)	作 成 者

設 計 基準値 A	規 格 値 界		測 定 単 位	日 標 準 量	
	上 限	下 限		試 科	大 小 間 隔
+	-		作 業 機 械 名		

月 日	測 点	組 番 号	測 定 値			計 ΣX	平均値 \bar{X}	範 囲 R		
			X1	X2	X3					
		1								
		2								
		3						X	R	
		4						平 均	\bar{X}	
		5						累 計		
小 計								小 計		
		6								
		7								
		8								
		9						平 均	\bar{X}	
		10						累 計		
小 計								小 計		
		11								
		12								
		13								
		14								
		15								
		16								
		17								
		18								
		19						平 均	\bar{X}	
		20						累 計		
小 計								小 計		

(注)

1. 管理限界線の引直しは 5-5-10-20-20 方式による。
2. 21 組から 40 組までは別のデータシートに記入する。以下、20 組ごとに同様とする。

<p>記 入 事 項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。 2. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。 3. 「番号」の欄は STA 又はロット番号である。 4. 「測定」の欄は当該測定番号を記入する。 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>n</td><td>d2</td><td>A2</td><td>D4</td></tr> <tr><td>2</td><td>1.13</td><td>1.88</td><td>3.27</td></tr> <tr><td>3</td><td>1.69</td><td>1.02</td><td>2.57</td></tr> <tr><td>4</td><td>2.06</td><td>0.73</td><td>2.28</td></tr> <tr><td>5</td><td>2.33</td><td>0.58</td><td>2.11</td></tr> </table>	n	d2	A2	D4	2	1.13	1.88	3.27	3	1.69	1.02	2.57	4	2.06	0.73	2.28	5	2.33	0.58	2.11
n	d2	A2	D4																		
2	1.13	1.88	3.27																		
3	1.69	1.02	2.57																		
4	2.06	0.73	2.28																		
5	2.33	0.58	2.11																		

\bar{X} -R 管理データシート

工 事 名	請負会社名
工種名(名称)	測 定 者
項目名(品質特性)	作 成 者

設 計 基準値 A	規 格 値 界		測 定 単 位
	上 限	下 限	
+		-	

日 標 準 量		
試 科	大 小 さ	
	間 隔	
作 業 機 械 名		

月 日	測 点	組 番 号	測 定 値			計 ΣX	平均値 \bar{X}	範 囲 R
			X ₁	X ₂	X ₃			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			
			・	・	・			平 均 \bar{X}
			・	・	・			R
			・	・	・			累 計
小 計								小 計

記 事

- (注) 1. 管理限界線の引直しは 5-5-10-20-20 方式による。
 2. 1組から 20組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記 入 事 項	1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。	n	d ₂	A ₂	D ₄
	2. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。	2	1.13	1.88	3.27
	3. 「番号」の欄は STA 又はロット番号である。	3	1.69	1.02	2.57
	4. 「測定」の欄は当該測定番号を記入する。	4	2.06	0.73	2.28
		5	2.33	0.58	2.11

Ⅹ-R管理図

設計基準値							
名称		工 事 名		事業所名		年 月 日	
品質特性		日 標 準		期 間	自	年 月 日	
測定単位		規格値限界	上限値	請負会社名	至	年 月 日	
測定方法		試 料	下限値	現場代理人			
作業機械名			大きさ	測定者			
			間 隔				

Ⅹ	
R	

組 の 番 号	
記 事	

注) 1. 管理図は、別紙Ⅹ-R管理データシートから記入する。

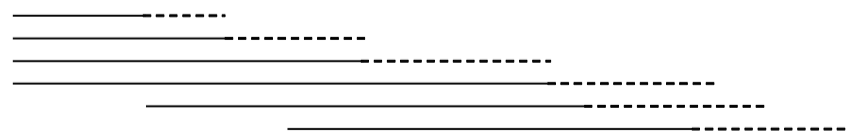
2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-Rs-Rm 管理データシート

名称		工事名		測定	自	年月日
品質・特性		事業所名		期間	至	年月日
測定単位		日標準量		請負会社名		
規格 限界	上限	試料	大きさ	現場代理人		
	下限		間隔	測定者		
設計基準値		作業機械名		作成者		

月日	試験 番号	測定値				計 Σ	平均値 \bar{X}	移動範囲 Rs	測定値内 の範囲 Rm	$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
		a	b	c	d					$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
	1								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	2												
	3										\bar{x}	\bar{R}_s	\bar{R}_m
	4								平	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	5								累				
	小計								小				
	6								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	7								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	8								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	小計								平	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
									累				
									小				
	9								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	10								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	11								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	12								平	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	13								累				
	小計								小				
	14								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	15								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	16								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	17												
	18												
	19								平	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	20								累				
	小計								小				
記事									n	d ₂	D ₄	E ₂	
									2	1.13	3.27	2.66	
									3	1.69	2.57	1.77	
									4	2.06	2.28	1.46	
									5	2.33	2.11	1.29	

- 注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。



- (備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 - - - - - 上記の管理限界を運営する区間を示す。

2. 以下、最近 20 個（平均値 \bar{X} を 1 個とする）のデータを用い、次の 10 個に対する管理限界とする。

X-Rs-Rm 管理データシートの2

月日	試験 番号	測 定 値					平均値 \bar{X}	移動範囲 Rs	測定値内 の 範 囲 Rm				
		a	b	c	d	Σ							
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
											\bar{X}	\bar{R}_s	\bar{R}_m
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
記 事										n	d2	D4	E2
										2	1.13	3.27	2.66
										3	1.69	2.57	1.77
										4	2.06	2.28	1.46
										5	2.33	2.11	1.29

注) 1. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 上記の管理限界を運営する区間を示す。

2. 以下、最近20個(平均値 \bar{X} を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

X-Rs-Rm 管理図

設計基準値							
名	称	工	事	名	事	業	所
品	質	日	標	量	期	間	自
測	特	規	値	上	請	負	至
定	性	格	限	限	現	会	社
方	位	界	界	下	場	代	名
法		料		大	理	人	
作		間		き	測	者	
業		隔		さ			
機				大			
械				小			
名				間			

X			
Rs			
Rm			

組の番号	
記 事	

- 注) 1. 管理図は、別紙 X-R 管理データシートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。